

# IT における性犯罪といじめ

アルバート・キム

## 1. はじめに

現在、世界中でグローバル化が進んでおり、科学技術を使うことでつながっている状態である。この状態は「ネット時代」とよく呼ばれる。インターネットを通していつでも、どこでも、何でも調べることができる。それに加えて、どれだけ遠く離れていても、連絡することができる。世界中の人と交信できるのだ。しかし、この時代の科学技術の進歩には二つの面がある。IT に関しても長所があると同時に短所もある。つまり、役に立つと同時に、危険なところもある。

日本の場合、世界のハイテク産業のリーダーになったことで、日本人は科学技術に大きく影響されるようになっており、これは日常生活において大きな意味を持つ。仕事と個人の生活の両方において重要なものとなっている。日本社会において「科学技術は不可欠」である (Matsuda 2005:19)。数年前、日本ではのべにして約 80 億人が携帯電話を用いていたが (Igarashi et al. 2005)、2007 年 6 月の統計報告によると、約 98 億人の日本人が用いている (Telecommunications Carriers Association, 2007)。

日本社会が科学技術においてどのように利益を得ているかはよく知られているが、悪用はどのように広がったのだろうか。

## 2. 研究の目的と方法

現在、日本では IT の危険性が問題になっている。科学技術がますます普及し、インターネットや携帯電話のようなものに関係する犯罪が増加してきた。しかし、IT に関係する性犯罪やいじめは報道がコントロールされており、それほど知られていない。

本研究は現在、日本で起こっている IT 性犯罪といじめの現状に対する意識を高め、このような事件を減少させることを目的としている。実は大人も IT 性犯罪といじめの被害を受ける可能性があるが、多くの事件は子供が巻き込まれるものであり、中でも特に検討したいのは若者である。

研究の手順としては、まず LINE という無料通話アプリに焦点を当て、その機能や設定などを分析した。それから、IT 性犯罪といじめに対してとられている対策を検討し、その効果、効率を評価した。本研究で LINE アプリに焦点を当てたのは明らかに今の日本でもっとも利用されている通話アプリだからである。また、IT 性犯罪といじめに関する統計と傾向についても検討し、これらとどのように関わっているかを分析した。そして、

最後に IT 犯罪に対して効果的に対処するためにはこれからどのように進んでいけばいいかを考察した。

### 3. IT を使った性犯罪といじめ

性犯罪とは性に関係して何かをする強制する犯罪であり、性犯罪被害者対応拠点モデル事業検証部会によると「刑法上の強姦、強制わいせつ等の性的欲求 等に基づく身体犯」と定義されている(性犯罪被害者対応拠点モデル事業検証部会、2010)。また、いじめとは MEXT によると「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」と定義されている(文部科学省、2011)。

したがって、IT 性犯罪は性犯罪の一部ということになり、IT いじめはいじめ犯罪の一部ということになる。これらの定義には犯罪者と被害者が直接会ってから起こる事件、インターネットや携帯電話などを使って起こる事件の両方とも当てはまる。

また、性犯罪といじめの統計データを見てみよう。2006 年から 2010 年までの 5 年間の性犯罪認知件数の平均は 12,340 件であり、人口 1 万人あたり 0.97 件が認知されている。図 2 が示すように、日本で一番認知件数が多いのは大阪府 (1,379 件) である。

順位	都道府県	認知件数		偏差値
		総 数	人口1万人あたり	
並替	北 南	降順 昇順	降順 昇順	降順 昇順
1	大阪府	1,379件	1.57件	80.84
2	東京都	1,797件	1.40件	73.80
3	福岡県	649件	1.28件	69.17
4	京都府	322件	1.23件	66.84
5	広島県	321件	1.12件	62.43

図 2 2006 年-2010 年の性犯罪認知件数 (<http://todo-ran.com/t/kiji/13991> 2014 年 09 月現在)

続いて、MEXT の 2010 年「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」によると、小学校、中学、高校を合わせたいじめの認知件数は約 75,000 件であり<sup>1</sup>、そのうち、パソコンや携帯電話などを使って起きたいじめの件数は約 2,924 件だった。図 1 から分かるように、最も件数が多いのは公立の中学校である。

<sup>1</sup> [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/23/08/\\_icsFiles/afieldfile/2011/08/04/1309304\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/08/_icsFiles/afieldfile/2011/08/04/1309304_01.pdf) (2014 年 08 月現在) を参照。

区分	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		計	
	件数 (件)	構成比 (%)	件数 (件)	構成比 (%)	件数 (件)	構成比 (%)	件数 (件)	構成比 (%)	件数 (件)	構成比 (%)
国立	0	0.0	19	16.7	3	21.4	0	0.0	22	5.5
公立	265	0.7	1,564	5.0	780	15.2	18	5.3	2,627	3.6
私立	3	2.7	81	10.0	191	12.9	0	0.0	275	11.5
計	268	0.7	1,664	5.1	974	14.7	18	5.3	2,924	3.9

図1 2010年にパソコンや携帯電話等を使ったいじめについての統計

([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/23/08/\\_icsFiles/afieldfile/2011/08/04/1309304\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/08/_icsFiles/afieldfile/2011/08/04/1309304_01.pdf) 2014年09月現在)

さらに正確に言えば、LINEの場合、NHKによると2013年1月から6月までの間に117人の子供がLINE無料通話アプリにより被害を受けている。2012年の警察庁の調査によると、36人が被害を受けていたので、3倍にふくれ上がったことになる<sup>2</sup>。

#### 4. LINE とは何か

LINEは無料通話アプリの一つだが、ひじょうにたくさんの機能があり、様々な機器、例えば、スマートフォン、フィーチャーフォン、タブレット、パソコンで利用できる。韓国Naver Corporation傘下のNHN Japanが開発したアプリである。

LINEの公式サイトによると2014年4月現在で、LINEのユーザー数は全世界で4億人を突破したそう。LINEの代表取締役社長、森川亮氏は2014年の年度内にユーザー数は5億人を突破すると予測されている。ユーザー数のどんどん上昇しており、今年度内に5億人を突破する可能性は高い。

図3を見れば、LINEのユーザー数は非常に大きな上昇率を示している。

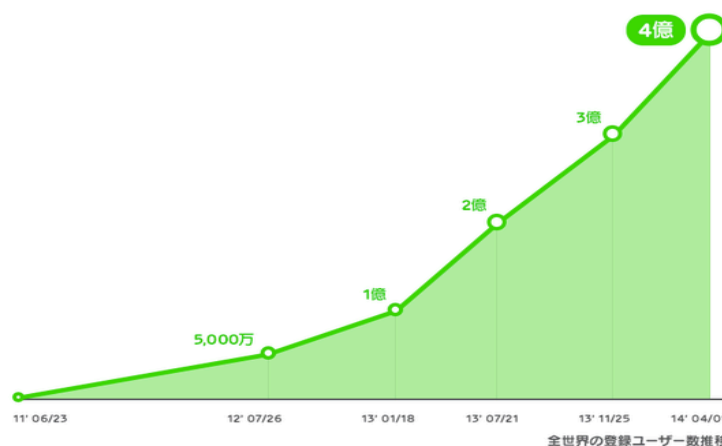


図3 2011年-2014年のLINEユーザー人数 (<http://linecorp.com/press/2014/0402713> 2014年09月現在)

<sup>2</sup> <http://news.nicovideo.jp/watch/nw765807> (2014年09月現在) を参照。

LINE は元々、2011 年の東日本大震災に対応するために作られた。災害を受けたところではその時連絡が取れない状態になったため、LINE で家族や親戚と連絡を取ることができるようにしようと考えたらしい。

ここで LINE の特徴と設定について説明しよう。これまで IT 技術の進歩に比例して LINE の機能も特徴も大きく進歩してきた。最初は基本的な連絡（電話とメッセージ）のやりとりの機能しかなかったが、現在は様々な機能が付け加えられた。しかし、残念なことに、LINE の影響力がこれほど強くなっているにもかかわらず、このアプリの機能と能力には様々な問題がある。扱いに注意を要する個人情報に流出する可能性が高い。

まず LINE の特徴的な機能の中で最も重要な二つは「LINE カメラ」（2012 年に追加された機能で、写真を撮って、好きに飾ったり、送ったりできる機能）、と「LINE タイムライン」（2012 年に追加され、ソーシャルネットワークのように機能する）がある。それぞれの LINE ユーザーは自分の「タイムライン」ページがあり、近況や意見をシェアすることができる。LINE の危険性は特殊な機能の進歩とともに高まっていく。LINE に追加された機能を使って、ユーザーが内輪の個人的な情報を多くの人とシェアしたいという誘惑にかられてしまうのだ。LINE は 少しずつ Facebook のようなソーシャルネットワークに変わってきた。ソーシャルネットワークのようなアプリに変わっていくことがなぜ危険かと言えば、扱いに注意を要する個人情報に流出する可能性が高いからである。自分のページに載せた写真や近況のアップデート、住所などの情報が多くの人に見られてしまう。

次に LINE の設定だが、知らない人と知り合い、やり取りしやすくなっている。LINE の特徴的な機能だけでなく、LINE の設定には非常に大きな危険がある。まず、LINE はユーザーの名前、電話番号、または自分で決めた「ユーザーID」で検索し、見つかった人を友達リストに追加することができる。そして、自動的にユーザーの友達に追加されるシステムになっており、友達でなくても会話を始めることができる。したがって、ユーザーが知らない人とでも簡単に連絡を取れるようになってしまう。さらに、LINE ユーザーの間では、ほとんどの場合、自分の携帯電話と LINE がつながっている。これがなぜ危険かと言えば、ユーザーの名前、電話番号、そして、ユーザーID のうち、一つだけでも知れば、見つけたい人がすぐ自動的に追加され、携帯電話に通話できるようになる。通話するだけでなく、そのユーザーに何でも送れるし、メールや、ビデオチャットも勝手にできるようになる。若者にとって、これは特に危険ではないだろうか。また、最近 LINE では不正にログインする事件が多く、本名を使わず、匿名で乗っ取りをする様々なケースが起きている。LINE はセキュリティが弱いようだ。「オレオレ詐欺」で騙す事件が多い。IT 性犯罪や金銭に関わるに犯罪が繋がっていく。

## 5. LINE における IT 性犯罪といじめの実例

LINE を使った IT 性犯罪といじめの実例は多い。IT で危険なのは顔が見えないことである。顔を見ては言えないようなことが言いやすくなるのだ。こうして、顔が見えない状

態で結局たくさんの扱いに注意を要する情報を全世界にさらしたり、いじめに使うことが可能になる。面と向かっていじめるより、顔を見ずにいじめるほうが簡単だ。また、相手の顔が見えないと、騙されやすくもなる。特に、若者の場合、状況がよく分からないまま、犯人の命令に従ってしまう可能性が高い。性犯罪といじめについてのニュースは報道されるが、具体的な事実、情報はかなり隠されており、社会で認知されていないケースも多いようだ。ここで実際に起き、報道された二つの IT 性犯罪といじめ事件を紹介したいと思う。

まず、2014 年に埼玉市で起こった事例を紹介する。埼玉市内のホテルで女子中学生と 34 歳の男性が直接会った。二人は LINE を通じて知り合い、やり取りしたそう。この 34 歳の男性は中学生にみだらな行為をしたとして、逮捕された<sup>3</sup>。

次に、いじめの実例を紹介する。2014 年に慶応大学の 3 年生の女性が LINE を通してのやりとりによって自殺した事件だ。交際していた同じ大学の男性に「お願いだから死んでくれ」「手首切るより飛び降りれば死ぬるじゃん」というようなメッセージを送られ、結局自殺してしまった。この男子学生は容疑者として逮捕された<sup>4</sup>。

## 6. IT 犯罪といじめに対する対策

現在、LINE における IT 性犯罪といじめと戦うために様々な対策がとられている。あるいは、検討されている。

まず、使用を禁止するという簡単な方法がとられた。2013 年、広島翔洋高等学校では校内のイジメによってトラブルが起きたため、使用禁止とし、生徒達の父兄に手紙を書き、校外でも LINE の使用を禁止するようお願いした<sup>5</sup>。

また、そのようなものを使わないと誓約させる対策も検討されている。2013 年から愛知県の刈谷市と福岡県の春日市の全小中学校では市教委と生徒達の父兄が協力し、犯罪と戦うためにスマホを持っている学生達に誓約書を書かせることを考えている。それは子供の睡眠時間を確保し、犯罪から子供を守るためである。まず 2013 年にこれが検討課題になり、刈谷市では市教委が「夜 9 時以降の携帯、スマホ禁止」という対策を提案した<sup>6</sup>。そして、2014 年に福岡県の春日市では市教委が愛知県の刈谷市と同じように「夜 10 時以降の携帯、スマホ禁止」にしようと提案した<sup>7</sup>。愛知県の刈谷市と福岡県の春日市の市教委はこんな誓約をさせるのが対策として望ましいと述べているが、どうだろうか。ただガマンさせるだけで長期的な成功とはならないのではないかと思われる。ガマンさせるだけでなく、このような問題と危険性について生徒達によく理解させることが必要だ。

---

<sup>3</sup> <http://headlines.yahoo.co.jp/videonews/fnn?a=20140407-00000215-fnn-soci> (2014 年 09 月現在) を参照。

<sup>4</sup> <http://matome.naver.jp/odai/2139296629820372201> (2014 年 09 月現在) を参照。

<sup>5</sup> <http://matome.naver.jp/odai/2138225404422753601> (2014 年 07 月現在) を参照。

<sup>6</sup> <http://aichi.thepage.jp/detail/20140331-00000002-wordleaf> (2014 年 07 月現在) を参照。

<sup>7</sup> <http://aichi.thepage.jp/detail/20140331-00000002-wordleaf> (2014 年 07 月現在) を参照。

その他にももっとユニークな対策も立てられている。例えば、LINE を使ったいじめの実態を知ってもらうために作られた「ジョークサイト」がある。このサイトは「チャットログ」再現サイトで、実例のように構成されたいじめ事件が表示されている<sup>8</sup>。参加者の1人が「一緒にいるだけで迷惑」「既読無視すんじゃねーよ」というようなメッセージを送り、ついにいじめられている一人が自殺する。そして最後に、チャットログは「びっくりさせてごめんなさい。ジョークです。この話はうそでした。でも、スマホを使ったいじめは実際に起こっています。ノリで人を傷つけていませんか？いじめで苦しんでいる君は、一人で悩まないで、誰かに頼ろう！」というメッセージで終わる。それに加えて、分かりやすい漫画とアニメもあり、犯罪といじめ問題について意識を高めるための作品ばかりである。例えば、『いじめ』という漫画シリーズがあり、特に学校内で起こるいじめを見せる。

IT 犯罪と戦うための対策としては理想的で、こういう対策であれば、若者は簡単に目を向けてくれる。指導は効果的にする必要がある。特に、IT 環境で起きる性犯罪は予防しようと思えばできるものだ。つまり、悪い人間がインターネットやスマホを用いてターゲットを騙そうとしても、ちゃんと注意されていた人は騙されず、事件も起こらない。したがって、騙されやすい若者が興味を持ちやすく、注意を向けやすい手段がいいだろう。面白く見えて、若者が必ず気に入るようなものを用い、性犯罪といじめについて教えたり、注意をうながしたりするのが有効だと思える。漫画やアニメのようなものをいろいろ作り続けていけばいいのではないだろうか。子供の能力の限界を超えず、厳しく叱る指導より、若者達が IT 性犯罪といじめが起きた状況の深刻さをじゅうぶん認識させることが必要だと信じている。

## おわりに

以上、この研究では IT 性犯罪といじめの問題について考察した。その結果、IT、特に LINE アプリには危険があり、様々な方法を用いて上手く注意をうながすことが必要だと結論できる。よく利用されている他のアプリとそのアプリの危険性について検討することを今後の課題としたい。

---

<sup>8</sup> <http://linelog.jp/> (2014 年 08 月現在) を参照。

## 参考・引用文献

Igarashi, T., Takai, J., & Yoshida, T. (2005), *Gender differences in social network development via mobile phone text messages : a longitudinal study*, *Journal of Social and Personal Relationships*, 22(5), pp.691-713

性犯罪被害者対応拠点モデル事業検証部会（2010）、『性犯罪被害者対応拠点モデル事業等の検証報告』（2014年09月現在）を参照  
[http://www8.cao.go.jp/hanzai/kohyo/shien\\_tebiki/pdf/s5.pdf](http://www8.cao.go.jp/hanzai/kohyo/shien_tebiki/pdf/s5.pdf)

Telecommunications Carriers Associations (TCA) (2007), *Japan Mobile Subscriber Statistics, June 2007*.（2014年09月現在）を参照

Matsuda, M. (2005), "Discourses of *keitai* in Japan", in, Ito, M., Okabe, D., and Matsuda, M. (edited by) *Personal, Portable, Pedestrian: Mobile Phones in Japanese Life*, Cambridge : MIT Press

文部科学省, 「いじめ問題への文部科学省の取り組み」（2014年09月現在）を参照  
<http://www.mext.go.jp/ijime/detail/1336269.htm>